



株主のみなさまへ

# 第84期 中間報告書

平成20年4月1日から平成20年9月30日まで

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、まことにありがたく、お礼申し上げます。ここに「第84期中間報告書」をお届けし、当第2四半期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）の業績の概況、事業の概況、経営方針についてご説明いたします。



取締役会長 浦西徳一 取締役社長 豊田周平

### 業績の概況

連結売上高は、前第2四半期に比べ87億円（1.5%）増収の5,906億円となりました。これは主に、シート、ドアトリムなどの内装品の増産による増収です。

連結経常利益は、前第2四半期に比べ37億円（12.6%）減益の262億円となりました。増産増収の影響、合理化など増益要因はありましたが、製品価格変動の影響、市況値上げ、労務費の増加などにより減益となりました。また、連結四半期純利益は、前第2四半期に比べ34億円（17.9%）減益の159億円となりました。

通期（第84期）の業績予想については、9月26日に業績予想の修正を公表しました。売上高は、前期に比べ1,137億円（9.2%）減収の1兆1,200億円、経常利益は、より一層の合理化に努めるものの、北米・日本をはじめとする減産による減収、製品価格の変動や労務費の増加などにより、前期に比べ236億円（36.1%）減益の420億円となる見込みです。

当期の中間配当金は、誠に遺憾ではございますが前期の中間配当金と同様の1株につき15円とさせていただきます。期末の配当金は、当期の連結業績予想などを総合的に勘案して、前期（記念配当2円を含む）に比べ5円減配の1株につき15円とし、年間では前期に比べ5円減配の1株につき30円を予定しています。なお、連結配当性向は、前期（16.1%）に比べ、22.4%と大幅に上昇する見込みです。

### 事業の概況

#### 国内事業の取り組み

当社は、以前から自動車用内装システムサプライヤーとして車室空間全体の提案力強化を進めており、当第2四半期には、トヨタ自動車株式会社のアルファード・ヴェルファイア向け製品の生産を開始しました。人材育成分野においては、世界21カ国にまたがる当社グループ社員の人材育成・強化を目的とした「グローバル研修センター」を

平成20年11月に竣工、また将来の技能系職場の核となる人材の育成を目的とした「トヨタ紡織学園」を、平成21年4月の開校に向けて準備を進めています。

#### 海外事業の取り組み

グローバル展開としては、欧州地域における最適生産のために、フランスに欧州連合地域において初のシート組立拠点となる「トヨタ紡織ソマン」を設立。シートフレーム、シートカバーの最適物流体制強化のために、ポーランドにアイシン精機株式会社との合弁による「TBAIポーランド」の設立を発表しました。

また、平成9年から環境にやさしい植物「ケナフ」を自動車内装品に活用する研究を進めており、インドネシアで栽培から製品化までを一貫して行ってきました。更なる採用拡大に向け、ケナフの品質・量・コストの安定化のために、インドネシアのバリタス国立研究所とケナフ種子の開発契約を締結し、本格的に種子開発に着手しました。

#### 経営方針

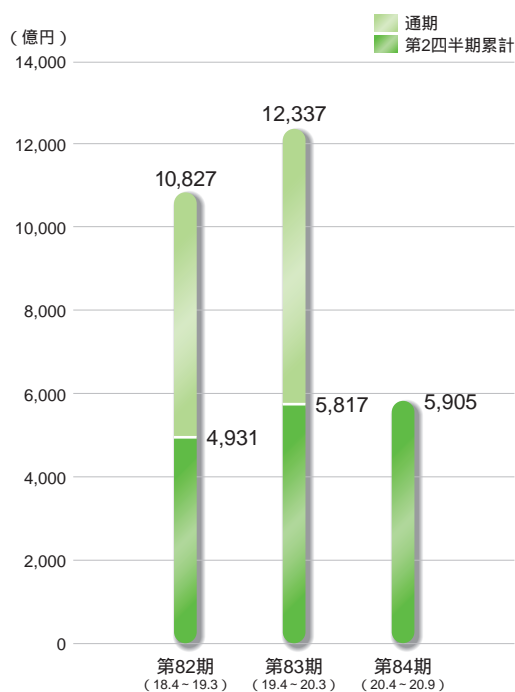
当社グループは、2010年までを「真のグローバルカンパニーへの基盤確立のための第2の創業期」と位置づけ、「足元固めのための取り組み」と「将来の発展のための先行施策の取り組み」を同時に進める中で、人材育成を図り、グローバル競争を勝ち抜いていこうと考えています。

世界経済、事業環境は過去にないスピードで変化していますが、徹底的な収益確保に向けた諸施策を推進し、ネガティブな環境のなかでポジティブな効果を生み出すチャレンジを通じて、当社グループの競争力を一層高めてまいります。株主のみなさまには、引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

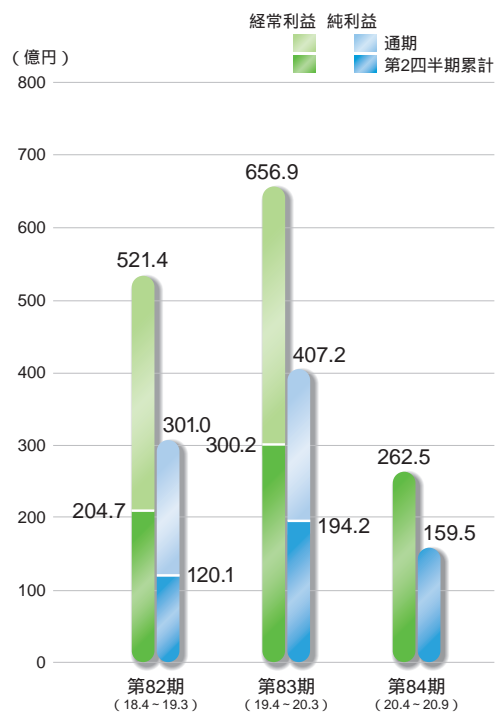
平成20年11月

## 連結決算

## 連結売上高の推移



## 連結利益の推移



## 新プレス工法「FHS」工法を開発、 世界トップクラスの生産性を実現。



### ファイン・ホールド・スタンピング工法 (FHS工法)

トヨタ紡織は、このほど革新的な新プレス工法、「ファイン・ホールド・スタンピング工法 (FHS工法)」を開発し、平成20年8月に公開しました。これは自動車用シートのリクライニング機能部品「ラウンドリクライナー」を生産するために開発された技術で、高品質を実現しながら高速での生産を可能にしたものです。

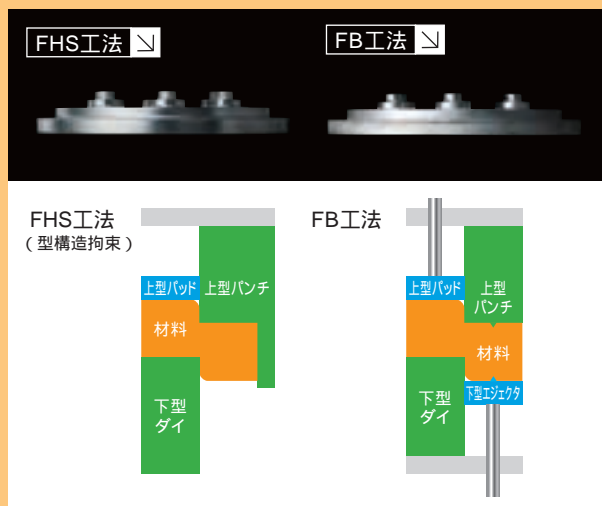
従来、ラウンドリクライナーは、鉄板の両端を油圧で拘束して加工する油圧式プレス機による「ファイン・ブランピング工法 (FB工法)」で生産していました。FB工法においては、加工時の油圧のパラツキが、不良品を発生させる大きな原因の一つになっていました。また、生産速度も遅く、その生産性の低さが課題になっていました。

これらの課題を解決したのがFHS工法です。油圧を使用せず鉄板を金型拘束するため、鉄板の「逃げ」を防止し、高品質なプレスせん断面と良品率99.9%以上を確保。さらに、FHS工法とともに開発された機械式プレス機によって、板厚4.3ミリの本部品を毎分100個以上の速度(当社FB工法比:約4倍)でプレス加工することが可能となり、世界トップクラスの生産性を実現しました。

その一方で、高品質・高速生産を維持するための研究にも取り組みました。金型部品に金属やセラミックの微粒子を噴射することによって、金型部品の表面に「くぼみ」を形成して硬度を上げるとともに、プレス加工時に発生する摩擦を極力抑え、金型部品の長寿命化に成功しました。さらに金型のメンテナンスでは、従来の手作業に代わり、超精密加工機と加工ソフトを開発・導入して自動化と精度の向上を図りました。また、1度のプレス加工で2つの部品を生産する技術開発にも着手し、さらなる高速生産も実現しました。このFHS工法は、現在、国内だけでなくタイの生産拠点にも導入しています。

なお、この新工法は当社のもう一つの主要事業、フィルター・パワートレイン機器部品事業で生産しているオイルフィルターのプレス部品への応用も可能。今後も自動車部品事業における他分野での活用も視野に入れるとともに、モノづくりの精神に基づき、より高品質、高効率な生産体制の構築を目指します。

例えば、食材を切る時、包丁に力を入れるとその力によって食材がわずかにずれてしまい、時に切り口がちぎれたような形になってしまうことと同じ現象です。



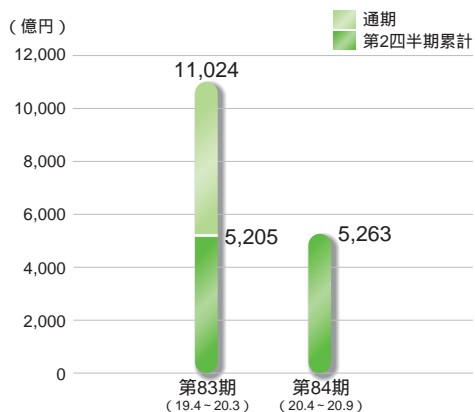
**内装品事業** コンセプトづくりから設計・生産まで一貫して実施。積極的に新技術開発に取り組む。

当社グループは、車室空間全体のコンセプトづくりから開発・設計・調達・生産までを一貫して行う内装システムサプライヤーとして独自の地位を築いています。単にパーツやモジュールを組み合わせるのではなく、シート、ドアトリム、天井、カーペットなどから構成される車室空間を統合的・効率的にコーディネートされたシステムとしてとらえ、トータル的な美しさや快適性・安全性を追究。さらに製造から廃棄までの各段階における環境負荷の軽減を徹底しています。当第2四半期は、トヨタ自動車のアルファード・ヴェルファイア向け製品の生産を開始しました。

また、今後は繊維・外装品他事業と連携し、電子技術の強化と拡大、シート機能部品の開発などに力を注ぎます。

なお、連結売上高は増産による効果などにより、前期に比べ58億円（1.1%）増加の5,263億円になりました。

#### 内装品事業の売上高推移



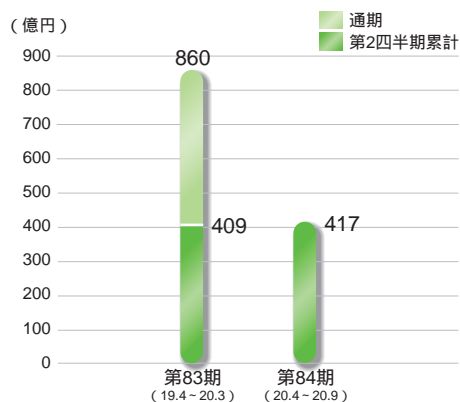


**フィルター・パワートレイン機器部品事業** 世界トップの自動車用フィルターメーカー。社会の要請に応える高性能な製品づくりを推進。

当社グループの源流事業である繊維技術を生かして、世界をリードするフィルトレーション技術の向上に努め、高効率、長寿命、低圧力損失を実現する世界トップレベルのフィルター製品を開発・生産しています。エンジン吸気系ではエンジンの高効率化や小型・軽量化に対応した吸気システム製品を、エンジン潤滑系では環境負荷を大幅に低減したエレメント交換型オイルフィルターを、車室内空調系では高性能除塵脱臭フィルターや高性能花粉除去フィルターなどの開発・生産に取り組んでいます。今後は吸気系トータル性能を企画・設計できるシステムメーカーとしての実力を磨くとともに、潤滑系・空調系フィルターの次世代開発を積極的に行い、環境・エネルギー・健康など社会的な要請に応える製品の提供を目指しています。

連結売上高は、エアフィルターの増産などによって、前期に比べ7億円(1.9%)増加の417億円になりました。

#### フィルター・パワートレイン機器部品事業の売上高推移



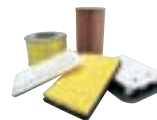
吸気システム製品



オイルフィルター



エアフィルター



キャビンエアフィルター



オートマチックトランス  
ミッションフルード用フィルター



HC吸着フィルター



エアクリーナー



インテークマニホールド



エアクリーナー  
一体型シリンダーヘッドカバー



ABSコイル



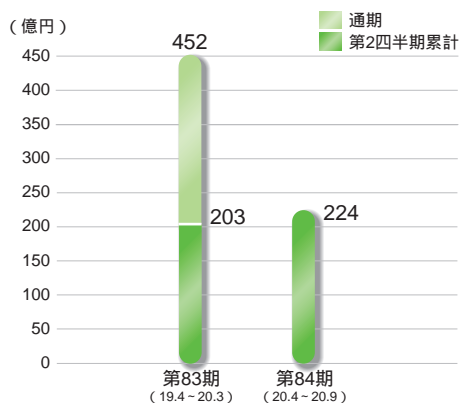
## 繊維・外装品他事業 時代のニーズを先取りして、新規素材の開発、環境にやさしい製品づくりを推進。

時代のニーズを先取りし、より一層の快適性・高機能を追求した製品づくりを進めています。繊維事業では、エアバッグ用布製品をはじめ、シートファブリックや天井表皮材、高機能ユニフォームなどの分野で新規素材の開発を行う一方、環境にやさしい製品づくりを積極的に推進しています。今後は内装品事業との連携を深め、シートファブリックやカーペット、エアバッグ、シートベルトなどの技術開発力の強化、シートファブリックのデザイン力強化を図ります。また、外装品の分野では、高度な安全性が求められる補給用バンパー、剛性に優れコスト競争力を持つフェンダーライナーやエンジンアンダーカバーの生産を行っています。

なお、連結売上高は前期に比べ21億円(10.3%)増加の224億円になりました。

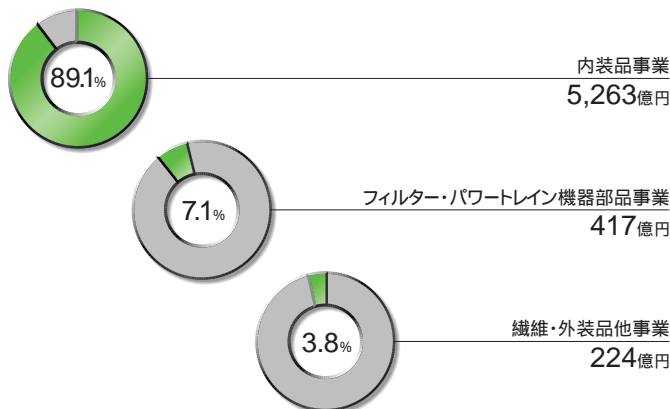


## 繊維・外装品他事業の売上高推移



## 事業別情報

各事業の売上構成 第84期(20.4~20.9)



## 地域別情報

■…………地域統括・開発・営業拠点 ●…………生産拠点



## 海外関係会社 (平成20年9月30日現在)

## アジア

地域統括・開発・営業拠点 / 豊田紡織(中国)有限公司 トヨタ紡織 アジア  
 生産拠点 / 成都豊田紡織自動車部品有限公司 豊愛 広州 汽車座椅部品有限公司 広州桜泰  
 汽車飾件有限公司 昆山豊田紡織自動車部品有限公司 寧波亞染克汽車部品有限公司 寧波豊田  
 紡織自動車部品有限公司 上海豊田紡織自動車部品有限公司 天津豊愛汽車座椅部品有限公司 天津  
 英泰汽車飾件有限公司 天津華豊汽車裝飾有限公司 天津豊田紡織自動車部品有限公司 佛山  
 豊田紡織汽車零部件有限公司 新三興股份有限公司 トヨタ紡織 オートモーティブ インディア  
 アパディ バリント オートテック トヨタ紡織 UMW トヨタ紡織 フィリピン ARST(タイランド) SK  
 オート インテリア STB テキスタイルズ インダストリー タイシートベルト トヨタ紡織 フィルトレー  
 ションシステム(タイランド) トヨタ紡織 ゲートウェイ(タイランド) トヨタ紡織 ハイフォン トヨタ  
 紡織 ハノイ 他1社

## 北中南米

地域統括・開発・営業拠点 / トヨタ紡織 アメリカ  
 生産拠点 / ARJ マニュファクチャリング TBDN テネシー トータル インテリア システムズ  
 アメリカ トヨタ紡織 マニュファクチャリング ケンタッキー トヨタ紡織 インディアナ トヨタ紡織  
 ミシシッピ トリム マスターズ トヨタ紡織 カナダ TB メキシコ マスタートリム デアルゼンソン  
 他14社

## その他

地域統括・開発・営業拠点 / トヨタ紡織 ヨーロッパ  
 生産拠点 / トヨタ紡織 フランス TBMECA ポーランド トヨタ紡織 ロシア トリム リーダー トヨタ  
 紡織トルコ トヨタ紡織 南アフリカ トヨタ紡織 オーストラリア 他1社

## 連結子会社および関連会社 (平成20年9月30日現在)

	子会社	関連会社
日 本	16社(16社)	5社(5社)
北 中 南 米	25社(26社)	1社(1社)
ア ジ ア	24社(24社)	4社(4社)
そ の 他	7社(7社)	2社(2社)

( 内は前期末

## 国内関係会社

(平成20年9月30日現在)

子会社 生産会社	その他	関連会社
株式会社KYOEI ARACO	タカテック株式会社	株式会社関東シート製作所
株式会社コベルク	株式会社TBエンジニアリング	株式会社関東シート北上
株式会社TB岩手	TBクリエイティブ株式会社	トヨタ車体精工株式会社
トヨタ紡織九州株式会社	TBコーポレートサービス株式会社	ナルコ株式会社
トヨタ紡織滋賀株式会社	株式会社TBテクノグリーン	ハイニード工業株式会社
ファミック株式会社	株式会社ティービーハイテック	
アラコ九州相知株式会社	TB物流サービス株式会社	
	株式会社テクニカルリンクスデザイン	
	トヨタ紡織ユニフォーム株式会社	



## 地域別の概況

### 日本

国内自動車生産は、買い替えサイクルの長期化、燃料価格の上昇などにより、計画に対し減少しましたが、国内生産全体では前年を若干上回りました。

このような状況の中で、大型ワンボックスカーであるアルファード、ヴェルファイアに、飛行機のファーストクラス並みの乗り心地を実現したシートが採用されるなど、新技術の開発にも積極的に取り組みました。国内の売上高は前期に比べ160億円(4.8%)増加し、3,487億円になりました。

### 北中南米(アメリカ・カナダ・メキシコ・アルゼンチン)

北米では、サブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速により、大型車種が大きく減産。特にインディアナでは、タンドラ、セコイヤの大型2車種が、8月から3か月間の生産停止になるなど、非常に厳しい結果になりました。中型車種も生産が減少し、全体的に大きく減速する形となりました。売上高は前期に比べ194億円(16.4%)減少し、990億円になりました。

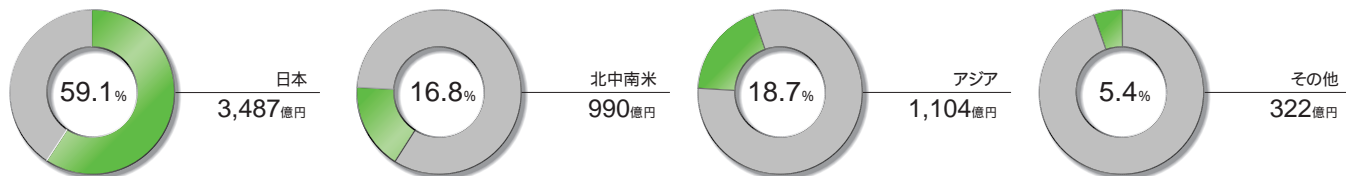
### アジア(中国・タイ・ベトナム・フィリピン・インドネシア・インドなど)

アジア地域では、中国で昨年生産を開始したトヨタ自動車株式会社のグローバル車種であるカローラの生産台数が順調に推移し、クラウン、レイズ(日本名:マークX)など中国国内を中心にほとんどの車種が増産になりました。また、タイ、インドネシア、ベトナム、インドなどの地域での生産も順調に推移しました。

さらに、中国広州でヤリスの生産が開始になるなど車種も増え、売上高は前期に比べ147億円(15.4%)増加し、1,104億円になりました。

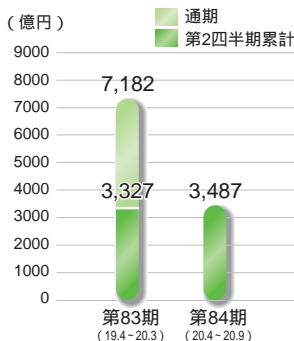
### その他(ベルギー・トルコ・南アフリカ・オーストラリアなど)

その他地域では、オーストラリアのカムリが若干減少し、ヨーロッパの経済環境の悪化によりトルコからの輸出車種であるカローラパソの生産が減少しました。しかし、南アフリカではグローバル車種であるカローラの生産を開始、順調に推移しました。地区別には、ばらつきはあるものの、売上高は前期に比べ24億円(7.1%)減少し、322億円になりました。

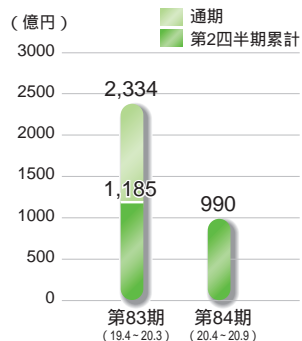


## 売上高の推移

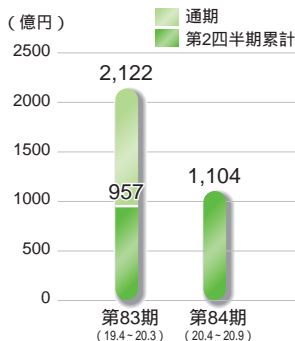
### 国内売上高の推移



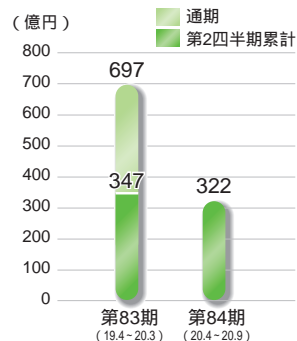
### 北中南米売上高の推移



### アジア売上高の推移



### その他地域の売上高の推移



## トピックス

## グローバル展開

ベトナムでカーテンシールドエアバッグの工場を増築。  
平成20年5月、ベトナムにある子会社トヨタ紡織ハイフォン有限会社で、カーテンシールドエアバッグの工場を増築しました。平成16年の設立当初に比べ、標準搭載化や大型化の影響により生産量が増加していましたが、平成22年には約2倍に増加する見通しとなったため、設備増設と工場増築を行いました。織機、コーティング機、レーザー裁断機の設備増設と建設工事、空調工事などの工場増築のため25億円を投資し、今後の生産量増加に対応します。また、欧州地域における最適生産・最適物流体制のより一層の強化を目指し、平成20年7月にフランス、9月にはポーランドでの新会社設立を発表しました。

## 国内展開

## トヨタ紡織学園設立を発表。

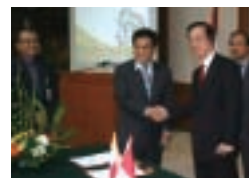
平成20年8月、トヨタ紡織学園の設立を発表しました。これは将来にわたり「モノづくりに強い現場」を維持し続けるために、技能系職場を担うリーダーの育成を目的としたもので、平成21年度の開校を予定しています。平成21年度新規学卒者のうち、30人を学園生とし、材料力学や回路図作成基本実習など、機械系および電気系の基礎を中心に原理原則で物事を考えることができる能力を育みます。また、当社オリジナルの科目として、しつけ教育やグローバル教育などを導入。モノづくりのノウハウや技能を伝承するとともに、「心・技・体」のバランスが取れ、グローバル感覚を持った人材、さらに寮での共同生活を通して高い協調性や仲間意識を持つ人材の育成を目指します。

## 技術

## 自動車内装部品用のケナフ種子開発を本格化。

当社は、平成9年から環境にやさしい植物「ケナフ」を自動車内装部品に活用する研究を進めており、インドネシアで栽培から製品化までを一貫して行ってきました。国内で平成12年に発売されたトヨタセルシオにケナフを使用したドアトリムの基材が採用されたのを皮切りに、現在では高級車を中心に採用されています。今後更なるケナフ製品の採用拡大を計る上で、農作物であるケナフを自動車内装部品という工業製品に使用するには、品質・量・コストを従来以上に安定化させることが必要であると考え、このたび、インドネシアのIToFCRI（通称：バリタス国立研究所）とケナフ種子開発契約を結び、本格的に種子開発に着手しました。

Indonesian Tobacco and Fiber Crops Research Institute:  
ケナフ種子改良に関して50年の経験があり、そのデータおよび改良種を保管する世界トップクラスの研究所



ケナフ種子開発契約調印式

## インパネスティックイルミネーションを開発。

インパネ がLEDによって青色に光るインパネスティックイルミネーションを開発しました。ダイハツ工業株式会社からの受注を受け、電子基板の設計からLEDを用いた光らせ方やレンズカバーのデザインの提案、生産までトータルに取り組みました。平成20年8月に発売されたダイハツの新型軽自動車「ムーヴコンテカスタム(RS)」に装備されています。

インパネ... インストールパネル



## 内装システムサプライヤーとして受注。

国内生産開始車種

アルファード / ヴェルファイア

海外生産開始車種

ヤリス(中国) タコマ(北米) カローラ(ベトナム、インド)



トヨタアルファード

## 環境

スパイラル・マグナス風力発電機を導入。

新エネルギーによるCO<sub>2</sub>削減の取組みの一環として、自然エネルギー(風力や太陽光、太陽熱)の活用を積極的に計画しており、今回、猿投工場にスパイラル・マグナス風力発電機を導入しました。当社はこれまでも各工場に風力発電機を設置してきましたが、新たに導入したスパイラル・マグナス風力発電機は、低風速(0.7m/s)での回転が可能な上、低回転で効率的に発電。

そのため、騒音がほとんどないなど周辺環境への配慮にも優れています。また、平均風速6m/sの場所では、一般家庭9軒分に当たる約3万キロワット/時の発電が可能な機体です。今後もサステナブル・プラント(自然を利用し自然と調和する工場)づくりをキーワードに、環境保全活動を積極的に推進します。



## 社会貢献

トヨタ紡織グループ『環境の森』  
加子母森づくりをスタート。

平成20年4月、当社新入社員が植樹に参加、森づくり活動が本格的にスタートしました。これは自然保護・環境保全活動と、社会貢献活動への理解、意識向上に役立てることを目的とし、今年度から行ったものです。少人数のグループに分かれて、棚の施行、土運び、植栽など、日ごろなかなか経験できない作業を全員で協力し、3～4時間かけて行いました。今後も全社で森づくり活動を実施する予定です。



ジュニアサポートクラブ「夏休み親子工作教室」を実施。

平成20年8月、「夏休み親子工作教室」を実施しました。会場は森づくり活動がスタートした岐阜県中津川市加子母にある乙女渓谷キャンプ場で、社員と家族29人が参加。間伐材を使った作品づくりや、インストラクターから森林保護と間伐材利用の話聞く体験を通して、子どもたちが森林の役割や自然環境保護の大切さを学ぶ機会をサポートしました。

ジュニアサポートクラブ...当社の社会貢献活動の重点分野「青少年育成・教育」をテーマとして、子どもたちを対象に実施するオリジナルプログラム。平成19年8月の「世界陸上観戦ツアー」に次ぐ第2弾。

## 広報活動

「人とくるまのテクノロジー展」で、  
当社ブースが「優秀賞」を受賞。

平成20年5月、パシフィコ横浜で開催された、自動車技術会主催「人とくるまのテクノロジー展2008」に出展しました。当社ブースは、JSAE EXPOSITION AWARD 2008「優秀賞」を受賞。ブースデザインのほか、見る側に対する訴求力が非常に優れている点が高く評価されました。



第24回読売広告大賞「読者賞(名古屋支社)」を受賞、  
賞金を寄付。

当社の企業広告が、読売新聞社主催の第24回読売広告大賞「読者賞(名古屋支社)」を受賞しました。これは、読売新聞に掲載された広告を、読売新聞の読者審査員が選考し、表彰するものです。クルマ社会の未来像について夢や期待感を感じられる点が評価されました。なお、賞金30万円は、読売光と愛の事業団に全額寄付しました。



## 決算概要

## 連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (平成20年9月30日)	参考 前期末 (平成20年3月31日)
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	65,354	70,421
受取手形及び売掛金	147,070	163,639
有価証券	17,890	22,883
商品及び製品	4,828	5,129
仕掛品	8,845	7,027
原材料及び貯蔵品	17,760	17,023
その他	27,239	30,155
貸倒引当金	699	598
流動資産合計	288,291	315,683
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	62,948	63,330
機械装置及び運搬具(純額)	71,528	68,769
その他(純額)	51,530	43,772
有形固定資産合計	186,007	175,872
<b>無形固定資産</b>		
のれん	2,572	2,702
その他	1,340	4,614
無形固定資産合計	3,912	7,316
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	8,591	9,025
その他	22,183	19,887
貸倒引当金	161	163
投資その他の資産合計	30,613	28,749
<b>固定資産合計</b>	<b>220,533</b>	<b>211,938</b>
<b>資産合計</b>	<b>508,825</b>	<b>527,622</b>

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

科目	当第2四半期末 (平成20年9月30日)	参考 前期末 (平成20年3月31日)
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	148,384	164,685
短期借入金	12,476	18,726
1年内返済予定の長期借入金	215	162
未払法人税等	4,861	6,796
製品保証引当金	1,950	2,143
役員賞与引当金	181	293
その他	44,084	46,331
流動負債合計	212,154	239,138
<b>固定負債</b>		
長期借入金	36,793	37,020
退職給付引当金	20,937	20,037
役員退職慰労引当金	542	807
その他	3,325	3,737
固定負債合計	61,599	61,603
<b>負債合計</b>	<b>273,753</b>	<b>300,741</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,400	8,400
資本剰余金	9,123	9,125
利益剰余金	186,422	174,772
自己株式	3,056	1,880
株主資本合計	200,888	190,417
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	1,098	1,254
繰延ヘッジ損益	36	13
為替換算調整勘定	5,463	5,330
評価・換算差額等合計	4,401	4,061
<b>新株予約権</b>	<b>269</b>	<b>155</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>38,314</b>	<b>40,368</b>
<b>純資産合計</b>	<b>235,071</b>	<b>226,880</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>508,825</b>	<b>527,622</b>

## 連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計 (自平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	参考 前第2四半期累計 (自平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
売上高	590,515	581,763
売上原価	541,625	532,716
売上総利益	48,890	49,047
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	9,233	7,576
その他	15,733	12,224
販売費及び一般管理費合計	24,966	19,800
営業利益	23,923	29,246
営業外収益		
受取利息	1,094	1,006
持分法による投資利益	1,024	984
その他	2,680	2,008
営業外収益合計	4,798	3,999
営業外費用		
支払利息	927	914
その他	1,542	2,306
営業外費用合計	2,470	3,220
経常利益	26,251	30,025
特別利益 中国子会社の過年度仕入修正益		1,613
税金等調整前四半期純利益(税金等調整前中間純利益)	26,251	31,638
法人税、住民税及び事業税	7,246	8,665
法人税等調整額	2,122	1,893
法人税等合計	5,124	6,771
少数株主利益	5,177	5,444
四半期純利益(中間純利益)	15,950	19,421



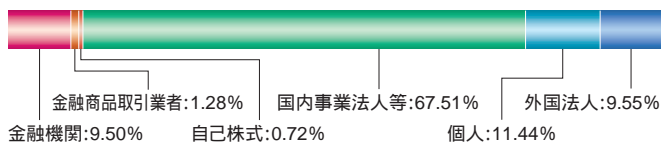
## 株式の状況

(平成20年9月30日現在)

株式の総数 ..... 発行可能株式総数 500,000,000株  
 発行済株式の総数 187,665,738株

株主数 ..... 14,886名

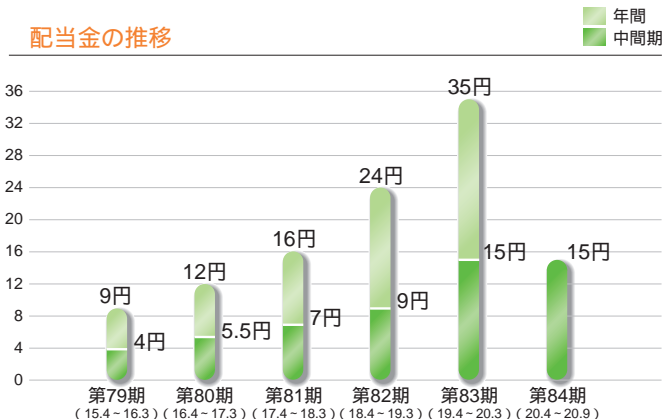
## 所有者別株式分布状況



## 大株主(上位10位)

株主名	株式数
トヨタ自動車株式会社	73,873,995株
東和不動産株式会社	18,346,209株
株式会社デンソー	10,192,100株
株式会社豊田自動織機	7,756,062株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,348,200株
日本発条株式会社	7,220,500株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,657,600株
豊田通商株式会社	4,367,100株
トヨタ紡織従業員持株会	1,433,819株
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,412,100株

## 配当金の推移



## 会社の概況

## 会社データ

(平成20年9月30日現在)

設立 ..... 昭和25年5月  
 資本金 ..... 8,400百万円  
 従業員数 ..... 7,593名  
 本社 ..... 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

## 国内拠点

(平成20年9月30日現在)

刈谷工場	猿投工場	豊橋北工場	東京工場
大口工場	藤岡工場	豊橋南工場	土橋工場
木曾川工場	下山工場	豊橋東工場	東京営業所
いなべ工場	高岡工場	田原工場	大阪営業所
岐阜工場	堤工場	御殿場工場	

## 役員一覧

(平成20年9月30日現在)

## 取締役および監査役

取締役 会長	浦西 徳一
取締役 社長	豊田 周平
取締役 副社長	野口 満之
取締役 副社長	小野 博祥
取締役 副社長	鳥居 立雄
専務取締役	中川 泰夫
専務取締役	川窪 英夫
専務取締役	栗谷 本強
常務取締役	古寺 幸耕
常務取締役	飯田 幸耕
常務取締役	古田 文正
取締役(専務待遇)	伊藤 隆樹
取締役(常務待遇)	桂木 正和
取締役(常務待遇)	山河 栄次
取締役(常務待遇)	鈴木 本一
取締役	岡本 寛
取締役	徳田 寛
常動監査役	今泉 潔
常動監査役	内藤 正
監査役	石川 忠司
監査役	豊田 章
監査役	濱田 隆一

## 執行役員

常務執行役員	渡辺 俊充
常務執行役員	原 保信
常務執行役員	酒井 賢
常務執行役員	宮田 徹司
常務執行役員	上田 広司
常務執行役員	清水 匠一
常務執行役員	野田 憲
執行役員	山本 直俊
執行役員	藤吉 茂治
執行役員	杉江 保彦
執行役員	大山 義隆
執行役員	滝堀 弘平
執行役員	豊島 淳
執行役員	山内 得次
執行役員	森川 久司
執行役員	吉川 靖
執行役員	榊原 優

## お知らせ

## 株式事務のお取扱いについて

事業年度：4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会：毎年6月  
 配当金支払株主確定日：3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日  
 株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 同取次所<sup>(注)</sup>：三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

(注)株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」に関する株式取扱規則の定めは、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

## ご案内

## 単元未満株式買取制度について

当社は、100株を1単元(通常の売買単位)とする単元株制度を採用しております。単元未満株式(100株未満)を所有されている株主の方は、当社に対して単元未満株式の買取(当社に対する売却)を請求することができます。所有されている単元未満株式の売却をお考えの場合は、当制度をご利用ください。なお、株券電子化前後は買取請求をお受けできない期間がございます。詳細につきましては三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。

## 株式に関する手続のお問合せ先

名義書換、単元未満株式の買取請求、住所変更その他株式に関するお手続きにつきましては、当社株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行までお問合せください。

電話(通話料無料)	0120-232-711(お問い合わせ) 0120-244-479(各種手続用紙のご請求)
ホームページアドレス	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

なお、証券保管振替機構(ほぶり)に預け入れされました株券についての諸届および手続等に関するお問い合わせは、お取引先の証券会社へお願いいたします。

## ご参考 株券電子化に関するお問合せ先

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されたQ&A(<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>)等をご参照ください。また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、「株券電子化コールセンター」(0120-77-0915 通話料無料 平日・土曜 / 9:00 ~ 17:00)までお問い合わせください。

株券電子化コールセンターは、証券保管振替機構、日本証券業協会、東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。

